

令和元年度 社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は、各事業所とも台風 19 号の影響による長期間の断水、新型コロナウイルス感染症対策と例年になく対応を迫られた一年となりました。

琴清苑新築工事業業の入札、契約、工事着工については計画どおりに推移しており「全従来型個室 96 名定員、中規模防災拠点型地域交流スペースを備えた施設」の運営展開について具体的な計画を策定する段階に入ってきましたが、今後新型コロナウイルス感染症対策の影響による工事の遅れが懸念されることです。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で 96.0%、琴清苑で 94.0%、短期入所事業では寿楽荘 101.0%、琴清苑 68.2% という結果であり、前述した感染症対策の影響により大幅に落ち込んでいることと、入所に対して慎重にならざるを得ない事態となっています。他にも入所待機者の著しい減少、要介護度の制約、職員の就労環境問題、身体拘束ゼロによる生活の質の向上等課題となっています。

また、看護・介護職の人材難が深刻であり、知恵をしばり雇用対策の強化を図っているところです。インドネシア人技能実習生 8 名の受入れも、将来的な雇用対策の一環です。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果により園児数は増加傾向にあるものの、年度後半には感染症対策の対応に苦慮した一年となりました。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、年度後半には新型コロナウイルス感染症が世界各地で激増し、感染拡大防止対策の周知徹底に努めました。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ体制強化を図って行きます。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は経営の安定化の為に、「経営コストの見直し」「診療所の環境改善」に努め、職場の問題点に気づき、情報を共有して職員一同向上出来る様取り組んだ。

「経営コストの見直し」では、職員が器具備品に対する考え方を改め、コストと利便性の両立を第一に多くの検討を重ね結果に結びつける様にした。

「診療所の環境改善」では院長（片倉）より感染予防についての環境改善案が上がり、不特定多数が触るスリッパへの履き替えを廃止し、感染予防対策を徹底した。また、職員同士の気付きにより、入居者の環境改善が見られた。

経営状態は、常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名（月計 4 日）となっているが常勤医師は、多くの委託業務を抱えており、医師の確保は引き続き必要と考えられる。下記に前年度との比較表を掲載しているが、入院患者数と入院報酬は減。外来患者数はあまり変わらないが、外来報酬は増となっている。理由として、入院の長期化が考えられるが双葉会診療所の地域における役割と理念を維持しつつ今後の経営に繋げる工夫を検討する。外来（主に寿楽荘、琴清苑入居者）では人数の変動は少ないが、入居者の重症化があげられ、医師の尽力と職員の工夫で診療所の経営を支えている。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

上半期の実績が、台風とインフルエンザ、更にはコロナウイルスにより一転してしまった。台風による断水やインフルエンザの院内感染など、生活リズムの変調が職員の精神・身体面に影響を及ぼしたのか、職員間相互扶助の関係に支障をきたし、現場も運営側も施設理念に基づき事業展開を図るなかで齟齬が生じ、結果として重大な提供サービスの低下となってしまった。職員不足も一因であるが、インフルエンザの蔓延やコロナ対策で職員の危機認識に稀薄さがみられるなど、

職員指示システムの士気の低下や利用者と向き合う姿勢の再教育など、運営面における業務の見直しが喫緊の課題と考えられる。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

令和元年度は全面改築が始まった年度でありました。6月末に東京都から内示を頂き、12月に入札、業者との契約、1月15日に地鎮祭、そして工事が開始されました。令和2年度中に工事が終了し、新しい施設が完成してまいります。今後ハード面の整備と共に業務面でユニット形式の施設への対応や認知症の利用者に対応出来るフロアの整備等、業務面での準備を進めてまいります。

施設利用率は93.97%と前年度より4.93%の減少となりました。ここ数年で最低の数字となりました。平成30年度の退所者は16名、令和元年度は30名と退所が53%も増加したこと。新規入所者は平成30年度16名、令和元年度28名と58%増加したものの入所希望者が減っている現状では、退所者数の大幅な増加に入所が追い付かない状況がうかがえました。又、年度終盤に起きた新型コロナウイルス肺炎感染症の流行により、新規入所者の受け入れを中止する措置により、次年度も厳しい年度になっていくと思われまます。

ショートステイにつきましても68.16%と前年度からは28.31%の低下になりました。新規の利用者が少なく、ショートステイから入所になる方が2名いて、入所者が減ったことと連携して結果としてショートステイ利用が減ることになりました。

慢性的な人員不足は今年度も続き、通常の運営が行えない状況が続いております。12月末にインドネシアからの技能実習生4名が就労を開始し、年度末までにかなりの業務が出来る様になってまいりました。半年後、職員として人員換算出来る時までに十分な資質をもった職員として就労していけると思います。しかしながら、年度末に退職者が出た現状では、引き続き職員の求人を続けていかなければ解決しない状況であります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

今年度も職員資質の向上や保育力のレベルアップに取り組んできました。

特に、3才未満児が多く生活環境衛生や安全面に万全を期しながら、一人ひとりの子ども達の発達や成長を全職員で共有し保育に取り組みました。

安全対策では、日頃の訓練に重点を置き、火災や地震を想定しながら子ども達が安全に避難できるように繰り返し実施しました。また、災害のほかにも不審者の侵入・感染症対策等、様々な場面での安全管理が必要となりますが、職員の連携やマニュアルを活用した訓練を行ってきました。特に、台風19号の影響による長期の断水や新型コロナウイルスの発生に対する危機管理につきましては、再度、見直しを図り今後にも備えていきたいと思ひます。運営状況では、児童処遇・職員処遇とも計画に沿った活動を実施し予算の執行に努めました。施設整備では、砂場の改修や電話機の交換工事を行いました。

財務面では、0歳・1歳児の割合が全園児の27%を占め、当初予算に比較して多くの加算があり、施設整備積立金を計上し将来への財源確保に努めることができました。